

科目名 (Subject)	ビジネスのための経済分析 (Economic Analysis for Business)		
単位数 (Credits)	2単位	(開講時期)	前期
担当教員名 (Name)	佐野 博之 (Hiroki SANO)	研究室番号 (Office)	436
Office Hours	初回の授業でお知らせします。		
1. 授業目的・方法 (Course objective and method)			
<p>ビジネスのための経済分析では、ミクロ経済分析の基礎から応用までを学びます。まず、消費者と企業の行動に関するミクロ経済モデルを学び、ビジネスへの応用を交えながら市場のメカニズムに対する理解を深めます。さらに、不確実性下の経済・経営環境への応用分析を学ぶことで、現実の諸問題に対してミクロ経済分析を応用できるようになることが最終目標です。</p> <p>授業は、受講者によるテキストの内容の報告（プレゼンテーション）およびディスカッション形式で進められ、毎回課題として与えられたテキストの練習問題の解答も行います。</p>			
2. 授業内容 (Course contents)			
1 経営者のためのミクロ経済学とは？			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第1章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 1.1			
2 需要と供給			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第2章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 2.1, 2.2			
3 限界分析			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第3章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 3.1, 3.2, 3.5, 3.6			
4 需要関数			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第4章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 4.2, 4.3, 4.12, 4.13			
5 消費者行動のモデリング			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第5章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 5.1, 5.4, 5.6, 5.9			
6 価格差別			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第7章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 7.1, 7.6, 7.7			
7 平均費用と限界費用および生産技術と費用最小化			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第8章と第9章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 8.1, 8.5, 8.6, 9.1, 9.5			
8 生産期間と生産費			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第10章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 10.1, 10.2, 10.3			
9 完全競争企業と完全競争			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第11章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 11.1, 11.5, 11.7, 11.8			
10 市場の効率性			
予習課題 テキスト (クレプス(2008)) 第12章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2008)) 練習問題 12.1, 12.4, 12.5, 12.7			
11 リスク回避と期待効用および期待効用モデルの有用性			
予習課題 テキスト (クレプス(2009)) 第1章と第2章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2009)) 練習問題 1.1, 1.2, 1.4, 2.1			
12 リスク・シェアリングとリスクの分散化：証券市場と保険市場			
予習課題 テキスト (クレプス(2009)) 第3章を読む			
復習課題 テキスト (クレプス(2009)) 練習問題 3.3, 3.4, 3.5			
13 シグナリングとスクリーニング			
予習課題 テキスト (クレプス(2009)) 第4章を読む			

復習課題 テキスト (クレプス(2009)) 練習問題4.1, 4.2, 4.3

14 インセンティブ

予習課題 テキスト (クレプス(2009)) 第5章を読む

復習課題 テキスト (クレプス(2009)) 練習問題5.2, 5.3

15 ポーターの5つの競争要因

予習課題 テキスト (クレプス(2009)) 第6章を読む

3. 使用教材(Teaching materials)

以下のテキストを用います。

クレプス, デビット・M (2008) 『MBAのためのミクロ経済学入門Ⅰ』, 中泉他訳, 東洋経済新報社.

クレプス, デビット・M (2009) 『MBAのためのミクロ経済学入門Ⅱ』, 中泉他訳, 東洋経済新報社.

なお, これらの訳本の原書は,

Kreps, David M. (2004) *Microeconomics for Managers*, W.W.Norton.

4. 成績評価の方法(Grading)

以下の要素を勘案して評価します。

評 価 の 要 素	ウェイト
出席率	10%
プレゼンテーションおよびディスカッション	50%
ホームワーク (事前課題の提出)	40%

5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

秀 (100～90) : ミクロ経済分析について秀でた理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について秀でた分析をすることができる。

優 (89～80) : ミクロ経済分析について優れた理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について優れた分析をすることができる。

良 (79～70) : ミクロ経済分析について良い理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について良い分析をすることができる。

可 (69～60) : ミクロ経済分析について理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について分析をすることができる。

不可 (59～0) : ミクロ経済分析について十分な理解力を持たず, それを応用して, 経済および経営の諸問題について分析をすることができない。

6. 履修上の注意事項(Remarks)

学部レベルのミクロ経済学の基礎を理解していること。